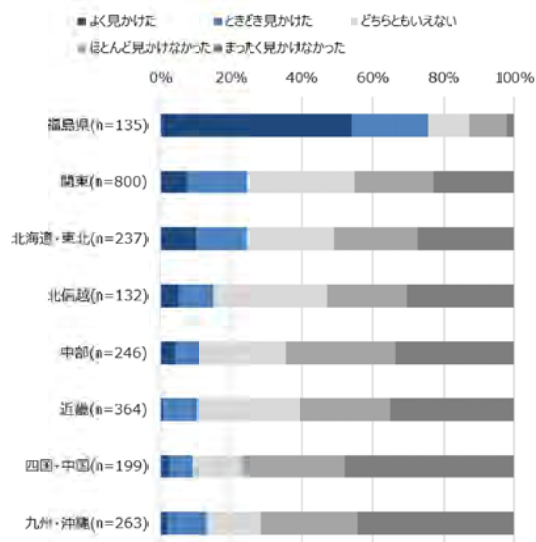


福島県産あんぽ柿を見た経験と購入経験（消費者アンケート）

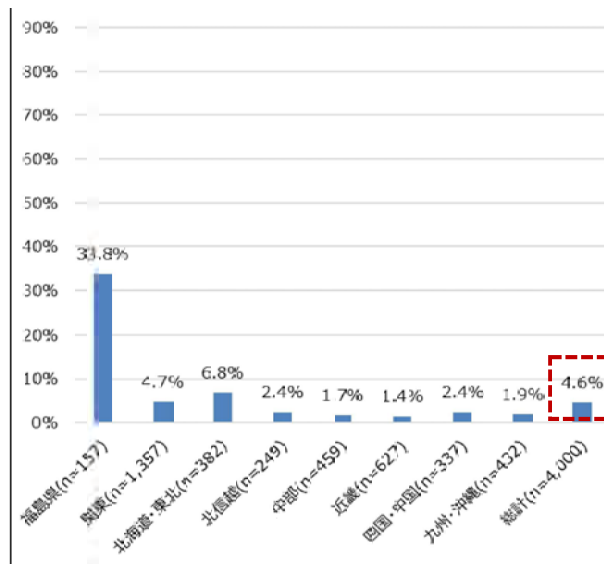
福島県産あんぽ柿を店頭でよく見かけた人の割合は、福島県が最も高く、他の地域では20%に満たない。福島県産あんぽ柿を購入したことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では4.6%であった。

福島県産あんぽ柿を店頭で見かけたか



※過去1～2年に、店頭で福島県産あんぽ柿を見た記憶を尋ねた。
※nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。

福島県産あんぽ柿の購入経験率



※購入経験率=1度でも購入したことがある人数/回答者数
※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていれば購入経験なしとなる。

341

あんぽ柿購入時の重視点と福島県産あんぽ柿の購入者の評価（消費者アンケート）

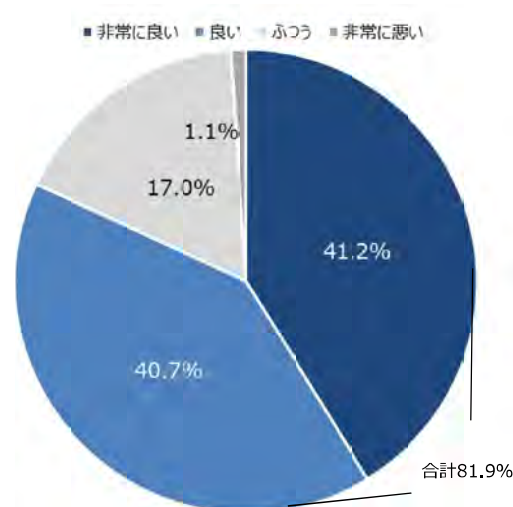
福島県産に限らずあんぽ柿購入時の重視点を尋ねたところ、「価格」が上位にあがり、次いで「鮮度」があがった。福島県産あんぽ柿の購入者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が81.9%であった。

あんぽ柿購入時の重視点（n=907、複数回答）



※あんぽ柿購入時の重視点は、福島県産に限らない質問。
※月に1回以上あんぽ柿を購入している回答者のみに尋ねた質問。

福島県産あんぽ柿の購入者の評価（n=182）



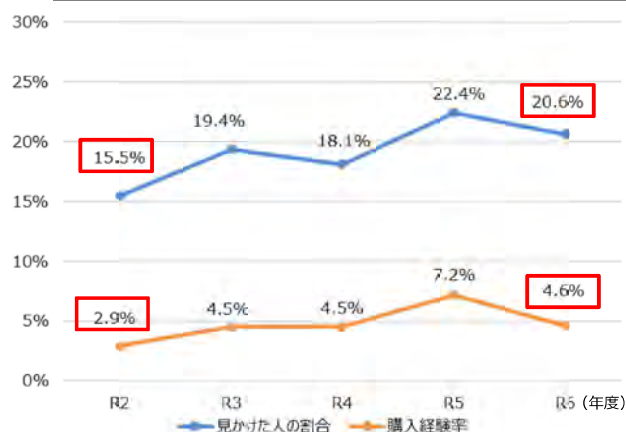
※福島県産あんぽ柿を購入したことがある回答者のみに尋ねた質問。

342

福島県産あんぽ柿を見た経験、購入経験と購入者の評価（消費者アンケート・経年比較）

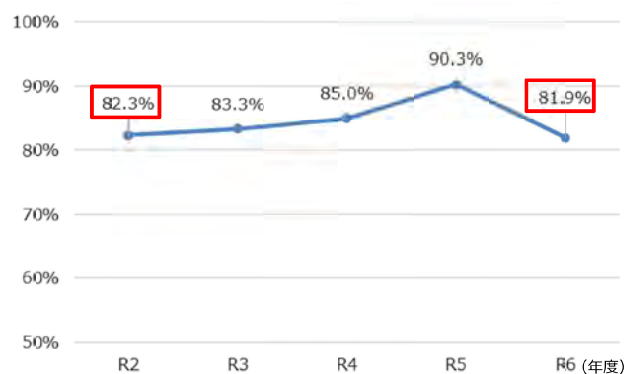
令和2年度と令和6年度を比較すると、福島県産あんぽ柿を店頭で見かけた人の割合、購入経験率はそれぞれ5.1%ポイント、1.7%ポイント上昇し、福島県産あんぽ柿の評価として「非常に良い」または「良い」と回答した人の割合は0.4%ポイント下降した。

福島県産あんぽ柿を見た人の割合、購入経験率



※見かけた人の割合は過去1～2年に、店頭で福島県産あんぽ柿を見た記憶を尋ねたもので、「よく見かけた」、「ときどき見かけた」を選択した者の割合の合計値。
※見かけた人の割合のnはR2:6,485、R3:7,177、R4:3,093、R5:2,624、R6:2,376。
nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。
※購入経験率＝1度でも購入したことがある人数／回答者数
記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていた場合は購入経験なしとなる。
※購入経験率のnはR2:11,000、R3:11,000、R4:5,500、R5:4,000、R6:4,000。

福島県産あんぽ柿を高く評価している人の割合



※福島県産あんぽ柿を購入したことがある回答者のみに尋ねた質問。
※グラフ上の数値は「非常に良い」、「良い」を選択した者の割合の合計値。
※nはR2:322、R3:493、R4:247、R5:289、R6:182。

343

6. 調査のまとめ

344

福島県産あんぽ柿に関する調査により明らかになったこと、それにより考えられる今後の方向性は以下のとおりである。

調査で明らかになったこと

- ・ 東京都中央卸売市場における福島県産干し柿の取引価格は、震災前は全国平均とほぼ同程度の価格であったが、近年は全国平均を下回る水準で推移している。
- ・ 1月において福島県産と山梨県産で価格ポジションが入れ替わり、その状況が現在も継続している要因として、震災後の福島県産の棚の消失、山梨県産の出荷量の減少等が考えられる。
- ・ 福島県産と競合県産との価格差の要因として、競合産地は機械乾燥を用いて出荷時期を調整している一方で、福島県産は自然乾燥で生産されるものが多く、出荷時期を調節することが困難であり、需要のピークが過ぎた時期に出荷ピークがくる点が挙げられる。
- ・ あんぽ柿は他の干し柿と比べて賞味期限が短いことも、価格に影響している可能性がある。
- ・ あんぽ柿の生産者は60代以上が7割以上を占めており、高齢化が進んでいる。面積当たりの生産量についても前年より10%以上減少した割合が他品目と比べて高かった。
- ・ 福島県産あんぽ柿を購入したことがあると認識している消費者の割合は過去5年間で横ばい傾向である。

残った課題・今後の方向性

- ・ 現状、需要のピークが過ぎた年明けに出荷ピークがくるため、例えば機械乾燥を活用して需要のある年内の出荷量を増やす等、出荷ピークをならすことが考えられる。需要のある年内出荷を増やすことで単価向上も期待できる。
- ・ あんぽ柿の賞味期限は今年度から延びたものの、市田柿といった他の干し柿も賞味期限を延ばしており、賞味期限延長の技術開発を検討する必要がある。
- ・ 生産者の高齢化や生産性の低下が進んでおり、後継者の確保や生産性の向上が求められる。